

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教育学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価 (就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策 (院) (専門)

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 設立時に定めた修士・博士学位取得プロセスに基づく審査方法について、実施結果の検証を行う。	→「教育学研究科の教育課程を継続的に検討する委員会の有無と検討状況」「修士論文の提出要件等の規定の有無」「博士学位取得プロセスに関する規定の有無」「課程終了後の学生の自己評価」	C	B			

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) 学生へのアンケート調査結果を学習成果を測定するための評価指標の1つにしている。卒業式後に、研究科委員長、論文指導教授と学生との懇談会を開催した際、学生に口頭による自己評価を求め、学習成果測定の参考とした。今後は、修了後の評価も含め、学習成果を測定するための評価指標を明確化していく考えである。
★ 小項目6.4.2	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。 (説明) 博士学位キャンディデート1名が博士学位論文を、また、博士課程前期課程に在籍する学生2名が修士論文を提出した。研究科の博士学位授与手続きに従って審査を行い、博士学位授与を決定し、博士学位記の授与を行った。また、修士論文に関しては、研究科で定めた審査方法に従って審査・修了認定を行い、修士学位の授与を決定し、2名に修士学位記の授与を行った。学位審査および修了認定の客観性や厳格性については、学生へのアンケート調査結果等を参考に、研究科委員会で検討し、改善していく考えである。
その他	

《評価指標データ》

各学部における学生の進路状況
 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
 修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
 KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
 3年卒業の適用者数
 ジョイント・ディグリーの授与者数
 標準修業年限未満の修了者の数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	教育目標に沿った学習成果が上がっているかを測定するための評価指標の検討
★小項目6.4.2	学位取得プロセスに関する規定の検証と、明示。
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	修了生へのアンケート調査を実施し、その結果を学習成果を測定するための評価指標検討に活かす。
★小項目6.4.2	学生へのアンケート結果を基に、学位取得プロセスや審査方法について、研究科委員会で検証を行うと共に、研究科のホームページに学位取得プロセスを掲載することを検討する考えである。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○現時点での対応は適切に行なわれていると判断されます。今後、データを蓄積し、新しい指標を開発する等の取り組みを行なうことが期待されます。

【学内委員】

○適切に改善を進めていることが示されており評価できます。学位取得プロセスの明示については認証評価に向けて早急に明示することが望まれます。

○本項の説明は全て、学生へのアンケート調査がキーとなっているように見受けられます。認証評価の受審を目指し、具体的な事例を挙げ効果が上がっているのか、改善が必要なのかを記述していく方が望ましいと思われま。

○課題が示されていますので、大学基準協会の留意すべき事項を参照され、改善が進むことが期待されます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・目標が抽象的です。具体的な目標を新たに設定することが期待されます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.4.1

基盤評価：なし

達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に努めている」

○小項目6.4.2

基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準（学位論文審査基準）を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」

達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★なし	
-----	--